

高山西ロータリークラブ

創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために

●例会日 毎週金曜日 12:30~13:30 ●会長 鴻野 幸泰
●例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988 ●幹事 向井 公規
大垣共立銀行高山支店 4F ●会報委員長 田邊 淳

第2652回例会 令和3年11月5日
松倉中学校出前講座

＜会長の時間＞

本日は、松倉中学校へ我々高山西ロータリークラブの会員が14人職業講和に行ってきました。2年生の生徒さん約130人にひとりの会員が10人くらいを担当して30分の講和を2回おこないました。私は、開会の全体会であいさつをさせていただきました。内容としてはロータリークラブの目的、活動を生徒の皆さんにお話をしました。私も分科会を担当しましたので内容についてお話しします。



仕事内容については、私の経営しているのは旅館で国府町で営んでいます。創業は明治38年でその当時まだ電気のない時代で電気の配線工事などで多方面から技術者がたくさんきました。その時に宿泊する場所が少なかったので旅館をはじめました。

高山で働くことのこだわりや誇りについては今日、話を聞いてくれている中学2年生の生徒さん達が将来大人になって高山で仕事ができる事そして都会から高山へ帰って仕事がしたいそして皆さんが自慢できる町に職業を通して実現できるように努力していきたいです。

中学校で身につけておくといふ力などは、まずは基礎的な部分で学校での掃除部活動などでの整理整頓掃除をしっかりやってください。などの事をお話させていただきました。

3. 建築物左官塗壁は情緒があり、心に落ち着きや安らぎを与え、また美意識での街づくり（日下部邸、屋台蔵、土蔵）等、観光都市へ貢献している喜びが誇りです。

④ 中学生のうちに身に付けておくといふ力

「学校生活」・・・よく学び、よく遊べ。部活動頑張れ。絆を深め、良き仲間、友達を作れ。

1. 部活動で汗をかき、恥をかき、涙して、強い精神力、忍耐力を養う事。

2. 練習大会等での厳しさ苦しみ、勝負で勝つ喜び、負ける悔しさを体験し、忍耐力を養え。

3. 限界への挑戦。如何なることも挫けるな。「失敗、負けも良し」糧として奮起せよ。

「私生活」・・・挨拶（常識）、掃除片付け、無駄使いは駄目、足るを知れ、質素儉約。

1. 家事手伝いをせよ。親を敬い、共に汗をかけ。昔の言葉「働かざる者食うべからず」。

2. 感謝（おかげさまの心）、利他の心（思いやりの心）。人間力を養い実社会に備える事。

⑤ 我が人生顧みて思う事

1. 進路決め。卒業したら何になり何をしたいのか、何が好きなのか、思いをめぐらす。（ノーベル賞博士、金メダリスト、選手、政治家、総理大臣、福祉関係、企業家、公務員、事業主、農林業、マイスター職人）等、世の為人の為、精一杯生きる道を選ぶ。

2. 我が人生訓「苦あれば楽あり。念ずれば花ひらく。」その日その日を確実に生きる。人生とは、山あり、谷あり、まさかあり。「天国も地獄」もあります。己との闘いです。誠実に生きていけば神様が味方してくれます。大きな志を持ち、必要とされる学力「実力」を身につける事。

3. 企業が求める人物は「人柄」です。「誠実は信用の基」です。で結び、講義を終えました。

その後の全体会では下記の通り挨拶しました。

今、生徒さんのまとめと感想挨拶を聞かせていただき、私共の出前講座が皆さんの進路予備知識として多少なりともお役に立ったことを伺い嬉しく思いますと共に、この機会を設けていただいた先生と皆さんに御礼を申し上げます。この出会いを通して私共メンバーも「修練の場」である我が企業を振り返り、また己を振り返って見つめ直すことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。



ロータリーとは己を律し天職を高め職業を通して社会に奉仕する所です。私共はこれを機に更なる精進をして参りますとの思いで閉会の挨拶とし、加えてこの松倉中学校卒業生である弊社社員、谷向竜也君が、令和3年度技能検定試験（左官2級）において岐阜県知事賞（県内1位）を受賞し、今月30日表彰式に出席します。

＜出席報告＞

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
29名	—	29名	34名	85.29%

＜本日のプログラム＞

出前講座報告

青少年奉仕副委員長 挾土 貞吉

講話のテーマは4つ。

① 自社の仕事内容・・・左官業とは、別紙パンフレットにて説明。

② 高山で働くこだわり・・・自然環境に

恵まれ安全で住みやすく人情味があり、大きな災害もなく日本一良い所、何より左官仕事があり忙しいからです。

③ 仕事に対する誇り

1. 手仕事には定年がありません。左官技術を覚え、腕を磨き、仕上げた仕事でお客様に喜んで頂き、褒められ、認められる仕事です。また、飛騨匠としての職人技が後世に残る事が誇りです。

2. 左官伝統工法「湿式」塗壁は、自然素材で身体に優しい、また火に強く「生命と財産」を守り、国家国民のお役にたっていることが誇りです。



例会報告

今朝本人と話し、「地元（郷土高山）に就職して良かった。嬉しいですね。」と語ってくれました。彼は左官マイスター「飛騨匠」としての誇りとプライドを持って「明るく、楽しく、元氣よく」働いてくれており、将来が楽しみな根性のあるとても良い男です。

実力で勝負する職業にも夢があります。と語り掛け、最後の言葉として生徒さんに向けて **Boys, be ambitious.** 「少年よ大志を抱け」大きな志をもって世界に羽ばたき、また郷土に花を咲かせて下さい。とどこかで聞いた、読んだ話をして閉会としました。

井口 大輔

高校からは学校自体ですが、授業も少しずつ自分で考えて進んでいくようになる。失敗しても、その失敗は決して無駄ではないし、その後も途切れることなく生きていかなきゃいけない。いつ、どんな時に持っている資格で助かったと思うかわからない。興味とチャンスがあったらチャレンジのみ。

と言っても、最近のなりたい職業「YOUTUBER」やちょっと前の女の子のなりたい職業「キャパシタ」、今流行りの「声優」他はお金を払ってでも見たい聴きたい / 逢いたいと思ってくれる相手（FAN）がいるから成り立つモノであって、ヒトが生きるために必要な職業ではない。ヒトの生活に絶対必要な資格、職業を目指してもらいたいです。

最後に、ヒトは自分一人では絶対生きていけない。人とのコミュニケーションは大事。ヒトをスキな自分でいてほしい。そのヒトを好きになれるかはわからないけど、人をタイプ分けすると「ま、そうだね」と許せることは多々あります。そのうちの1つが血液型だし、他のだと色々あるけど「DCM」というのもあります。



組織/チームとなっていく一つの目標に向かっていく時、適材適所を回って多くの成果を上げていくことが大事。スマホをはじめとする net 主流文化となって世界社会はデジタル化し



ましたが、現代に生きる上で素早く処理することは当たり前。「処理するだけなら AI でもできる」。処理するだけではなくて、観察して、その先を考えて対応できる人。ヒトを見て、その人が何を求めているのか。何をするとあげると喜ぶのか。考えて考えてやった結果、予想以上の効果や成果を出したらガッツポーズできます。

と弊社のようなアナログでしか対応できない整備業種や資格にも興味をもってもらえると嬉しいです。ありがとうございました。

榎坂 純一

自己紹介としてこれまでの経歴、また現在の仕事内容を話しました。そしてテーマとして挙げられていた「高山で働くことのこだわりや誇り」については、学校側が意図した答えではなかったかもしれませんが、特になし、としました。以前は高山に拠点があることがむしろ不利だと思っていた、しかしネットの利用により地理的不利は緩和されつつある、と自社での商談等の例を引きつつ、目の前の課題に真剣に取り組む力を身につけて欲しい、と締めくくりました。



遠藤 隆浩

松倉中学校を50年程前に卒業しました遠藤隆浩です。事務所は当中学校のすぐ近くにあります。職業は税理士です。税理士とは何かを説明します。日本は申告納税制度です。申告納税制度とは税額を自分で計算して申告をし納税する制度です。しかし、日本の税制は複雑なのでなかなか会社であれ個人であれ自身で申告をするのは困難な面があります。そこで私たち税理士が税額の計算、申告のお手伝いをするのです。

皆さんにまず知っていただきたいのは日本の財政の現状です。収入より支出が多く、毎年赤字がたまっていく状態です。2025年には20歳から64歳の働き手1.8人が65歳以上の高齢者1人を支えていかなければなりません。未来を支える皆さんは非常に厳しい状況におかれているともいえます。さでどうしたらいいのでしょうか。単純に増税したらいいという問題ではないと思います。あまりに税負担が大きいと国民が疲弊してしまいます。

税金の負担と使い道は国民が選んだ議員が国会で決めます。皆さんも選挙権が与えられたらしっかりと考えて投票してください。

中学生で身につけておくといものはITの知識と英語力だと思います。後は友達をつくること。そして本を読んで自分で考える力を養ってください。

高山市はいい街です。そこで生まれ育ったことを誇りにして希望をもって頑張ってください。今日はありがとうございました。

大村 貴之

今回の出前講座の準備にあたり、自分の会社・行動・考えを再確認する時間を持つことが出来ました。

講座では、仕事内容・高山で仕事をするのの意義など自分なりの考えを伝えるとともに、自分の心掛けている考えとして『誰かがやってくれると思うのではなく、自分には何が出来るかを考えて行動する』を伝えました。



例会報告

自分にとっても学びの多い時間となりました。

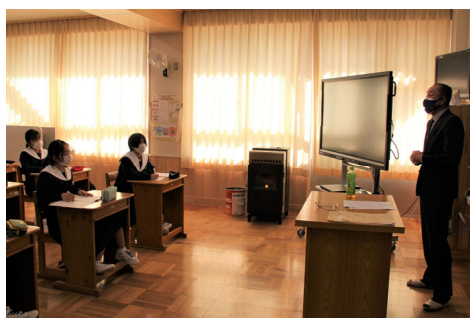


垣内 秀文

本日松倉中学校出前講座に参加させて頂きました。30分2セットの授業で時間配分に苦労しましたが、何とか飽きさせず、関心を持っていただけよう馴れ親しんでいると思われる家電を使い方等のクイズ形式で行いました。

生徒たちが活発だと感じたのは、問題を出すと10数名の殆どの生徒が挙手をしてくれ、回答とその理由を簡潔明瞭に答えてくれました。

クイズ形式を終え、Q&Aではどうしてその仕事を選んだか？仕事を通じて嬉しかったこと辛かったことは？いろいろな質問をお受けしましたが、「今回の出前授業を通じて働いている人の経験を聞いて、職業の意義や喜び、そこまで到達するまでの努力について学んでもらい、進路の選択肢を大いに広げるために、様々なことに興味を持ち学習意欲を高めながら生活を送ってほしい、そして高校、大学又は就職で市外、県外へ環境の違う土地でいろいろな経験して、またこの心の温かい街高山へ戻ってきて下さい」と締めくくりました。



下屋 勝比古

今回の担当では、特に「積棒的なあいさつ」「頼まれたら断らない」を中心に今やらなければいけないことを、しっかり全力で行うこと。もしやりたいことがあるならば、どうしたら高いレベルで活躍できるかを意欲して設定した目標に向かって欲しいと伝えました。また、東京や大阪でたくさんの人に埋もれて目立たないよりも、高山でどこの誰か分かる存在になった方が人として生きている感じが大きいのではないかということ自分の考えと経験を交えてお話をさせて頂きました。



たくさんのことを伝える時間が無いので、要点(テーマ)を絞っての話でしたが、伝えることの難しさは毎回のテーマです。前のクラスで堀さんの講義レポートがびっしり書いてあったので若干焦りました。私なりに経験から、中学生時代の思い出は一生のものなので友達と語り、遊び、悩み、苦しんでくださいと、今の悩みは大人になれば大したことではないので、大人や友達にいろいろ話して解決の糸口を探して欲しいとお願いしました。命は大切であると願いました。

普段仕事している意義や、目的、仕事を選んだことを思い起こし、自分自身をリセットできる貴重な機会をいただいた松倉中学校さんには深く感謝いたします。



杉山 和宏

これまで何度か職業講和をさせて頂きましたが、「電材」という電気材料に特化した卸売業、問屋という仕事をどう伝えたら中学生にも理解してもらえるかを考えておりました。レジュメを作り、電線や、わざと分かりにくい業務用商品のカタログなどを持ち込んで話をさせて頂きました。また、今回はコンセントの実物を見せ「裏側を見たことがありますか?」「表からは見えないけれど、この先に繋がっている無くてはならない材料を扱っています」と話してみました。うまく伝わったかどうか、まだまだ試行錯誤中です。

いままでは仕事内容を中心に話していましたが、少し変えて「みなさんは夢、希望、目標をもっていますか?」との問い掛けから始め、「したい!なりたい!が行動の原動力になる」との話をしました。というのも、自分自身が長いコロナ自粛のせいか、いろいろな物事を面倒に感じているようになり、行動しなくなっているのではと危惧したからです。

年に1度の職業講和は、自分自身の仕事に対する考えを棚卸するような気分で大変いい機会になっています。次回も是非参加したいと思います。



田中 晶洋

生徒さんの感想を聞いていると、如何に皆さんがいい話をされたかが分かって、自分の話の内容に自信がもてませんが、今回は大きく分けて2つのことについて話しました。一つはどうしたら自分の望む人生を送ったり、欲しい人生を手に入れられるかということについて話しました。それについてはいつも一つのたとえ話を上げます。コンビニへオニギリを買いに行くのに、



例会報告

「買えるかなど
うかな」と悩む
人はいません。
オニギリを買
うと決めたら、
150円か200円
を持つ→どうや
ってコンビニへ
行くのか(歩い
ていくのか、自
転車でいくのか、



車で送ってもらうのか)を決める→コンビニに入りオニギリを手
に取ってレジでお金を払う。このように欲しい物が手に入る人、
自分の願いが叶う人は、未来を決めてそこに辿り着くまでの道順
を考えます。という話と、何を決めるにも親や先生の意見に従う
のではなく自分で決めて下さい、自分で決めた人生なら誰も恨
まず、自分の生きたい人生を生きていくことが出来るという事を伝え
ました。自分はどれだけ出来ているんだというツッコミが入りそ
うですが、出前講座に行くと自分自身を見つめ直すことが出来、
とても勉強になります。

塚本 直人

中学2年生9人に対して30分授業
を2回おこないました。毎回感じる
ことですが、話をしている自分自身
が職業について改めて向き合う良い
機会だと認識しています。今般も子
どもたちからの質問を受けて、仕事
を始めた原点を確かめることができ
た貴重なひと時となりました。ありがとうございました。



修了式での
挟土さんの魂が
こもったお話は
とても伝わる力
を持った内容で、
子どもたちだけ
でなく僕も感動
しました。クラ
ブの皆様も機会
があれば聞いて
ください。



中島 一成

高山西RCは私にとって3つ目の
RCとなります。これまでの2クラ
ブでは、外に出て生徒さんに話をす
るようなイベントは行っておりませ
んでしたので、面白そうだと思い、
またホテルの仕事や高山グリーンホ
テルについて知ってもらいたいと思
い、今回参加させていただきました。
2班20名の生徒さんに、「高山グリーンホテルを利用したことは
ありますか？」と聞いたところ、ほとんどの生徒さんが利用され
たことがあると答えられました。また松倉中学校からは、高山グ
リーンホテルの建物が見えるほど近いことから、親近感を持って
いただいたのか、皆さん真剣に話を聞き、熱心にメモをとって
いたのが印象的でした。

今回初めての参
加となりますので、
割と真面目に会社
の歴史やホテルの
仕事についてお話
をしました。また、
ホテルにまつわる
クイズとして2問
用意しました。

1問目「家庭や
職場には普通にあ
るのにホテルには無いものは何ですか？」と聞いたところ、いき
なり一人目の女の子が「時計」と正解。理由も「時間を忘れてゆ
っくりと寛いでいただくため」と大正解でした。

2問目「高山グリーンホテルの従業員が食べてはいけない食材
は何ですか？」と聞いたところ、何人目かの男の子が「二枚貝」
と回答。正解は「牡蠣」特に生ガキは食中毒のリスクが高いので
すが、牡蠣も二枚貝の一種であり、理由も「食中毒のリスクがあ
るから」と大正解。私は「二枚貝」という言葉をホテルで勤める
ようになってから知ったので、中学生恐るべしと思いました。

最後の質疑応答では、男の子から「コロナでお客様も減ってい
ると思いますが、従業員を解雇しているのですか？」という、何
とも核心を突く恐ろしい質問がありました。私は「1～2年後には
コロナ感染も終息し、また世界中からお客様が来るようになる
と考えているので、解雇はせず、給料も支払っています」と答え
ました。何とも充実した時間でした。

今回参加させていただいた出前講座で改めて自分の会社や仕事
への誇りを感じることが出来ました。ありがとうございました。



堀 幸一郎

若い頃、東京の港区に憧れ、そこを
目指し上京しました。高山で仕事をし
ているのは22歳の頃、このまま大企業
で働くことが幸せになるのか、家業を
継いだ方が幸せになるのか考えた末、
家業を継ぐことを決意。自分がそうだ
ったように、若い世代が都会に憧れる
のは今も昔も同じです。であれば、高山の会社であっても「どこ
でも仕事出来る様にしたい」それが今のこだわりです。そのた
めにはITの活用が不可欠です。

- ・人の役に立つ仕事をしている事・お天道様はみている
- ・この人口の少ない地方都市で事業を成長させていること
- ・ITをフル活用し、生産性を上げ、都会の人より楽しく働けていること

・幼馴染みと一緒に
に仕事したり、遊
んだり、人生を楽
しんでいること
この3点が、高山
で仕事をしている
誇りです。

ITの進化で世の
中が便利になりす
ぎているので、わかっているけど「手足を動かす」やってみる実践
力を身につけて下さい。

・思ったことを(できれば多くの人の前で)相手に正確に伝える
「お話しする」能力



例会報告

- ・人の役に立つという前提でお金を稼ぐということがどれだけ大変かということ
- ・どんな困難にも立ち向かう精神力（文武両道）
- ・5教科のテストで、いつも400点くらいはとっておくこと（義務教育を身に着けていれば社会に出て大丈夫）
- ・読書力
- ・規則正しい生活（ルーティーン）



向井 公規

本日は13名の方に、松倉中学校『出前講座』の講師を務めて頂きありがとうございました。

校長からの話もありましたが、コロナの状況下で職場体験が中止となっているため、様々な職業について知りたいという生徒さんが多いとの事で、私はカメラマンとして各教室を回りましたが、みなさん真剣にメモを取り、質問もしっかりと行っているという印象でした。

また、閉会時の生徒さんからの感想では、「高山との関わりを大切にしていきたい」「高山で仕事をする意味合いが分かった」「様々な気づきがあった」などなど、講師の皆様方のお話が少しでも届いたのではないかと感じております。

最後に、各教室を回っている最中に、使用されていない教室をいくつか目にし、『少子化』の現実を垣間見た気がしました。ただその中でも、将来を担う若い人達に、仕事のみならず人生における楽しさや素晴らしさを伝えていく事は、今後更に必要になってくると感じておりますので、来期以降も青少年との接点は絶やさず、高山西ロータリーとして出来る奉仕を続けていければと感じました。

本日は誠にありがとうございました。

